

平成 28 年度通常総会報告

長崎県技術士会 会長 山口和登

6月18日諫早市のホテルセンリュウにて、平成28年度通常総会を59名の会員出席（欠席者の委任状は32名）のもと開催し無事終了しました。その後、日本技術士会長崎県支部年次大会、そして長崎県企画振興部政策企画課の岩松隼人主任主事、MHPS エンジニアリング（株）長崎事業部ボイラ設計グループの長谷川裕之グループ長（技術士：総合技術監理・機械・情報工学部門）を講師に招いてCPD研修会を開催しました。引き続き交流会を開催し盛会に終わることができました。前回は長崎県技術士会設立40周年祝賀会兼として開催しました関係からか多くの参加者がありましたが、今回も昨年とほぼ同じ多数の参加者となりました。長崎県支部関係は毎熊支部長が詳細に本機関紙で報告されていますので、そちらをご参照ください。ご協力ありがとうございました。

総会の議事内容については会員各位には周知済みでありますので、ここでは不参加会員を考慮して総会の状況をご報告申し上げます。

総会は川村副会長の総会成立（会員総数の5分の1以上の参加で成立）宣言の後、第1号議案から第5号議案の審議及び報告事項の説明が行われました。

1. 総会議案**第1号議案：平成27年度事業報告**

原案の通り承認

27年度の主な実績は、①役員会の年6回の定例

開催 ②総会時及び11月の研修会（年2回）、5月、10月、2月の現場見学会（年3回）の日本技術士会長崎県支部との共催による実施、長崎地盤研究会の勉強会・ジオラボの後援団体として年4回の研修会、年1回の現場見学会への参加 産業基盤維持管理技術研究会の講演会（年3回）見学会（年1回）への参加 ③機関紙の年4回発刊配信、会員名簿27年度版・40周年記念誌の作成（350部）会員及び関係機関に配布 ④会員の増強、平成28年6月現在の会員数156名（11名の新入会員）：長期にわたる会費未納の会員の名簿登録抹消のため、新入会員が11名と多いにかかわらず、昨年とほぼ同数の会員数となりました。 ⑤その他、公益社団法人長崎県建設技術研究センター主催の「ながさき建設技術フェア2015」の後援、NPO技術フォーラム懇話会後援及び長崎大学における技術士会による第1回講義の実施：受講大学生22名 などです。具体的には長崎県技術士会のホームページの活動状況報告を参照してください。

第2号議案：**平成27年度収支決算、会計監査報告**

原案通り承認：具体的な金額等はここでは省略しますが、先般配信した議案書において周知した通りです。詳細は議案書をご参照ください。

第3号議案：平成28年度事業計画（案）

原案通り承認

28年度の主な計画は、①総会及び役員会の定例開催 ②長崎県技術士会・日本技術士会長崎県支部共催の研修会の年2回開催、現場見学会の年2回開催 ③ジオラボ（長崎県技術士会後援）への

年4回の勉強会参加、年1回の現場見学会参加、産業基盤維持管理技術研究会への年3回講演会、年1回見学会参加 ④機関紙の年4回の継続発刊配信、会員名簿の昨年同様の350部作成配布 ⑤長崎大学との連携強化、学生を対象とした講義への講師派遣、他技術機関との連携 ⑥県技術士会の活性化：ホームページの更なる改編・充実を実行し、積極的な情報開示・会員募集、増員を図る等です。

第4号議案：平成28年度収支予算（案）

原案通り承認：具体的な金額はここでは省略しますが、先般周知した通りです。詳細は議案書をご参照ください。

第5号議案：長崎県技術士会役員

原案通り承認

今年度は役員改選の年ではなく、平成27・28年度の役員は昨年度総会で承認済のため、現役員構成で今年度も運営することが承認されました。次年度は役員改選のため、会員各位の役員就任への積極的表明をお願い致しました。なお、役員構成は長崎県技術士会の平成28年度版会員名簿及びホームページに掲載していますのでご参照ください（写真1）。



写真1

報告事項、その他

第4号議案で承認して頂いた事項のうち、熊本地震災害に対する義援金10万円を長崎県技術士会

名で熊本県に対して5月に送金した事の報告を行いました。

2. CPD研修会

2名の講師による下記の演題でCPD研修会を開催しました。

演題①：「長崎県における地方創生へ向けた取組」について

講師：長崎県企画振興部政策企画課

岩松 隼人 主任主事

演題②：「発電設備のことはじめ」長崎で最先端の発電設備が造られていることをご存知ですか？

講師：MHPSEシジニアリング株式会社長崎事業部ボイラ設計部ボイラ設計グループ

長谷川 裕之 グループ長（技術士：総合技術監理・機械・情報工学部門）

各講師による講演終了後、活発な質疑応答が行われ、充実した研修会となりました。

3. 交流会

研修会終了後、ホテル内の別室で交流会を開催しました。新入会員6名、講師の岩松氏、長谷川氏、日本技術士会九州本部の清崎淳子論文審査委員長を含め56名が参加しての盛大な交流会となりました。交流会においては長崎県技術士会の名誉会員であられる本田圭助氏の音頭のもと乾杯し、出席新入会員の自己紹介など会員相互の情報交換、最後は大橋義美監事の発声もと万歳三唱を行い、楽しい交流会となりました。

以上総会報告を行いました。

事業計画の中でも述べていますが、長崎県技術士会会員の更なる倫理の啓発、資質の向上、品位の保持に努め、技術士制度の理解と技術士の知名度・地位向上、活用促進、そして会員増加を図り、地域の発展と活性化に資する会へと発展させるよう努力いたしますので、会員各位のご協力、ご理

解、ご指導をお願いいたしまして総会報告とさせていただきます。

(公社) 日本技術士会九州本部

平成 28 年度長崎県支部年次大会 報告

長崎県支部 支部長 毎熊 元

今年度は4月から熊本地震が発生し、その後豪雨続きで被災者の皆様には避難所等での大変な生活を強いられておられることとお察し致します。関係技術士におかれましても、ご多忙な日々を送つておられることと存じます。今年度は災害の年となりそうです。

また、日ごろから長崎県技術士会、日本技術士会会員の皆様方には支部の活動にご協力頂き感謝申し上げます。



写真2

県支部と致しましては3年目を無事に迎え、6月18日（土）諫早市ホテルセンリュウにおいて第3回年次大会を開催することができました（写真2）。

今回の参加者は支部会員が35名、県技術士会会員を含めて約60名と前年度並みの多くの皆様に参加頂き、研修会・交流会共に盛会となり、感謝申し上げます。

支部年次大会関係について下記にご報告致しま

す。

1. 平成27年度事業実績としまして山口副支部長より、①CPD研修会年2回の開催 ②現地見学会年3回の開催（共に県技術士会と共に） ③平成27年度の収支決算報告。
2. 清水会計監事より、統括本部・九州本部から交付される年間活動費約400千円の監査報告。
3. 平成28年度の活動方針として川村副支部長より ①28年度会員状況（正会員89名、準会員30名） ②支部活動方針（会員の倫理啓発、資質の向上、品位の保持、技術士制度の理解と知名度・地位向上、技術士の活用促進、会員の増加、地域の発展・活性化に資する） ③支部役員（前回と同じ）等の報告。
4. 平成28年度の事業計画について川村副支部長より、①CPD研修会年2回の開催 ②現地見学会年2回の開催（共に県技術士会と共に） ③統括本部・九州本部から交付される年活動費の収支予算（約420千円）の報告。
5. 九州本部、清崎論文審査委員長から参加頂き、九州本部主催の論文発表会への参加要請がありました。
6. その他として山口事務局長より「長崎県における技術士登録者数は346名で会員数は89名で26%に過ぎない。活動方針に会員増加を掲げているので前向きに検討下さい」とお願いを致しました。
7. 質疑事項として、県技術士会名誉会員の本田圭助様より「地域の発展・活性化に資する活動として産学官連携を進めては」とのご意見があり、まだ設立2年で、未熟で、微力な支部で時間も要すると思いますが、県技術士会と共に協力し、まずは出来ることから検討して参りたいと考えております。

8. C P D研修会・交流会については、県技術士会山口会長からの「総会報告」を参照ください(写真3)。



写真3

今年度も主な活動課題としましては、技術士の責務であります継続研鑽(研修会、現地見学会等)や皆様の顔合わせの場となります交流会を主に県技術士会と協力して活動して参りたいと考えます。長崎県支部は船出して3年目です。体制も未熟で不十分なところもありますが、皆様方のご理解を、ご協力をお願い致しまして年次大会報告とさせて頂きます。

平成28年度第1回C P D見学会報告

支部広報委員 山口 昭光

5月26日、長崎県支部第1回見学会を下記内容で開催しましたので報告します。

テーマ 「歴史的環境を保全する土木施工法(中島川河川改修工事)」について

場所：中島川河川改修工事現場及び出島周辺(長崎市)

講師： 山本寛之氏(長崎振興局建設部河川課)、宮崎正吾氏(竹下建設工業(株)・現場代理人)、豊田亜貴子氏(長崎市文化観光部出島復元整備室・学芸員)、岡林隆敏氏(長崎県技術士会顧問・

長崎大学名誉教授)

参加者 17名

(出島の歴史と石垣の復元)

扇形の出島は、1634年から1636年にかけて築造された。鎖国時代、日本と西欧を結ぶ唯一の窓口であった出島は、経済・文化・学術の交流拠点として、日本の近代化に大きな役割を果たした。しかし、明治以降、人口増加と港湾機能の拡充のために出島周辺の埋め立てが進み、1904年の第2期港湾改良工事により、海に浮かぶ扇形の原形を失ってしまった。

また、1885年に起工した中島川変流工事では出島の北側18mが削り取られ、中島川左岸の護岸以外は、往時の扇形の出島を見ることができない。現在、2つの出島の復元計画が進められている。短中期計画は、鎖国時代の建物などの復元整備を行い、長期計画では、四方の水面を確保し、19世紀初めの扇形の島を完全に復元する。出島南側護岸石垣について、発掘調査を経て、発掘した現状どおりに石垣を積み直し、上段の石垣が欠損している箇所は既存石垣を参考にして、新石材による復元を行っている。南側護岸石垣の扇形のほぼ9割が頸在化している。2017年出島表門橋架橋で出島が変わる。

(中島川変流工事の時代の景観を復元する河川改修)

○設計条件等

計画規模 1/100年相当、計画流量 $Q=490 \text{ m}^3/\text{s}$ 、計画河床勾配 $i=1/1000$

○計画法線 ①河川整備計画の標準断面を基本としつつ、②既設護岸の法線を尊重して設定する。

○法覆工

低水護岸 鋼矢板護岸工法

選定理由 周辺護岸との調和（一貫性の確保）、安定性の確保、施工性かつ工期短縮（締切工を兼用できる）

○高水護岸 整備の考え方

既設護岸の見栄えや風合いを維持、既設石材を活した練石積構造、下部においては、既設石材を再利用し、既設石材が足りない上部においては、新材（諫早石）にて積み直し

○改修工事の概要

昭和57年の長崎大水害を受けて中島川の河川改修工事が進められ、改修工事も残すところ出島周辺護岸120mとなっている。工事箇所は、1885年から始まった中島川変流工事が行われたところで出島復元計画に位置づけられている。明治時代の護岸石垣の解体及び裏込め調査によって、江戸時代後期の護岸石垣が発見された。現在、匠の石工、学識経験者、学芸員、施工者、コンサル等により議論を重ねながら石積護岸の整備が進められ

ている。

今回は、①江戸時代の出島石垣発掘と復元工事、②中島川変流工事における河川護岸の発掘と護岸改修工事、③建設後150年間供用されている「出島橋」を見学した。

近世の日本に残されている土木構造物を文化財として保存するためには、土木史的研究とともに、設計に関する考え方や施工技術の解明が必要であるとの指摘があった（写真4）。



写真4

※ 機関紙発行担当者より

- (1) 平成28年度版の会員名簿の発送は7月末に予定していますが、記事にもありますように今年度は11名の新入会員がおられ、益々の本会の発展に対して大変心強く思います。
- (2) 会員皆様のご協力のもとに、平成28年度の総会・研修会・交流会は滞り無く盛会のうちに終わりました。新しい会員の方々や九州本部の清崎論文審査委員長の参加などにより、長崎県技術士会の発展や九州本部と長崎県支部との交流が期待されることも感じました。
- (3) 本会理事の松尾稔様が、平成28年度の（公社）日本技術士会の会長表彰を受賞されることになりました。技術士として長年のご活躍や日本技術士会の発展にご努力されたこととして、創立から41年目で歴史の長い長崎県技術士会から12人目の受賞です。筆者はご本のお人柄やご活躍に日頃から接して、同会にこのような技術士が所属されていることを誇らしく思います。

園田 直志

N.ソノダ技術士事務所

〒852-8021 長崎市城山町2-4

TEL. 080-3226-7200 FAX. 095-861-8279

Email: sonoda_naoshi@icloud.com

松本 守

(有) 創拓エンジニアリング

〒852-8041 長崎市清水町2番4号 FGEX 長崎ビル3F

TEL. 095-849-1781 FAX. 095-849-1749

Email: so_matu@d2.dion.ne.jp